

十人十色の、ミライを咲かせる

2017 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

# 2017 英語-①

- ・全体としてはやや易化。単語数、問題数の減少で、時間をかけて解けるテストに。各設問の難度自体は平年並み。
- ・マークシート導入により、英作文問題の問題数、配点が減り、長文の配点が増えた。また、語順整序の大問4も一連の会話文を読んで文脈に合う文を作る形式になった。四技能のうちReadingに比重が置かれている。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 リスニング	問題数は変わらずだが、配点は1点増加の19点。難度の高い(ウ)が4点から5点に。 (ア)ではoneやitなどの指示語による言い換えが正答に絡むケースが多かった。キーワードに注目するだけでなく、文脈をしっかりと掴むことが必要。	意識的に英語を聞く機会を増やして、慣れていくことが大切。リスニングCD等は英文を読みながら聞き、それぞれの単語の発音を掴むこと。
問2 適語補充	問題数、配点は変わらず。(イ)のwould you like ~など、イディオムの知識も問われた。(ウ)のthirstyは出てこなかった生徒も多いのでは。	出題されるのは基本的な語句。日頃からコツコツと暗記をしていくのが何よりの対策。
問3 適語選択	(ア)は最上級の文、(イ)は受け身、(ウ)はstop Vingの語法、(エ)は現在完了形。(イ)の主語を見極め適切な態、動詞の語形を選ばせる問題は頻出。主語への意識づけが必要。(エ)は過去を表す時間副詞と現在完了形は同時には用いないというルールを知っている必要があった。	各単元の基本文を押さえていく。時制、主語への意識を高く持ち、類題での演習を重ねよう。
問4 語順整序	今年から一連の会話文に沿う形で英文を作る形式に変わった。(ア)は現在分詞による修飾、(イ)はthinkなど+ (that) S Vとbecauseの用法、(ウ)は目的格の関係代名詞、(エ)はbe gladなど+ to Vとthinkなど+ (that) S Vの用法。 昨年までと同様、重文、複文の形の出題が多く、他県に比しても難度は高めと言ってよい。不定詞を使った構文、関係代名詞、分詞による修飾、間接疑問文はとくに頻出。対策は必須。	3年生後半の重要単元からの出題が多い。早めに予習を進めておこう。また、tellやknowなど、特定の動詞が使われた文が出題されやすい傾向にあるため、そうしたパターンを問題演習により把握していくことも大切。

# 2017 英語-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
大問5-6 条件作文	<p>問題数が4問から2問へ減り、配点も16点から10点に下がった。</p> <p>大問5はHow many timesを使った現在完了の経験用法の疑問文。基本文のレベル。</p> <p>大問6は間接疑問文。文中の姉の答えから疑問詞を使った疑問文でないことを読み取る必要があり、難度は高かった。</p>	<p>大問5は基本レベルの問題。英作文問題に繰り返し取り組み、各単元の基本文の学習をしっかりと行おう。</p>
大問7-9 長文	<p>問7はスピーチ原稿、問8は資料と英文の読み取り、問9は会話文。問題数は10問から9問に減少するも、1問あたりの得点が増え全体では40点から45点に配点が上がった。</p> <p>単語数は減り、文章全体はボリュームダウンした。設問自体も極端に難度の高いものはない。</p> <p>問8では資料の細部から必要な情報を読み取る必要があった。科目を問わず、情報把握能力が重要。</p>	<p>接続詞や前置詞、不定詞等の前で英文を区切って読むスラッシュ・リーディングの技術を身に付けられるとよい。</p> <p>そのためにも、初見の英文に触れる機会を増やしていく必要がある。学校のテストも実力問題化しているため、各単元で一問は長文読解に取り組もう。</p>

# 2017 数学-①

- ・マークシート方式となり傾向が変わった点が多かった。難易度は昨年より易化。昨年、一昨年と神奈川県では初めての出題パターンが1つは入っていたが、今年はない。
- ・昨年までの問5にあたる問題は削除され、問2が問2個に分かれる形となった。問1、2、7が記述で、それ以外がマークシート。問2、3の最後の問題、関数、確率、空間図形は1問5点の配点に変更。全体の約60点分がマークシートで答える出題となった。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 計算	例年通りの出題傾向。大きな変更はなかった。	出題されるパターンは決まっている。早く正確に解く訓練が必要。
問2 小問集合	昨年までは小問集合として(ア)~(ク)の8問出題されてきたが、今年は問2で4問、問3で5問の出題に分けられた。問2では、乗法公式の計算、因数分解、2次方程式、相似が出題。相似の図形問題は難易度がやや高めではあったが、過去の神奈川県入試の傾向からは外れていない。	神奈川県入試で過去に出題されてきた問題に多く触れることが必要。基本は多くの受験生が正解できる。図形の応用も、パターンに分けて訓練し、汎用性のある解法をマスター。
問3 小問集合	変化の割合、割合の文字式、中央値、式の値、方程式の解の5問。特にひねった問題もなく、昨年と一昨年の過去問と近いものが多い。(オ)では2次方程式の共通解で定数aを求めるものが出題された。5点問題だが基礎レベル。	幅広く出題される可能性があるため、他県入試の小問にも触れていく。
問4 関数	例年通り(ア)~(ウ)の3問構成。昨年と同様に比を使って座標を求めるものがあったが、数値が分かりやすいので求めるのは容易。(ア)と(イ)では、解答に至る過程は昨年と同じであった。(ウ)では面積を2等分にする座標を求めるもので、図形の性質を必要とし難易度は比較的高い。	決まった手順に沿って解いていく訓練が必要。図形的な考え方も関わるので、相似や面積比の基礎もおさえる。

# 2017 数学-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問5 確率	さいころ2つパターンであったが、図形的な思考を使わない問題であり試行の内容も把握しやすい。出題も2問になり、昨年と比べると難易度は下がった。しかし、数えるのに時間がかかるもので、処理能力が問われる。	正確に数え上げる訓練を重ねる。
問6 空間図形	例年通り(ア)~(ウ)の3問構成。(ア)では三平方の定理すら使わない、単純に体積を求める問題であった。(イ)も例年通りの解法手順で解ける。(ウ)では最短距離の長さを求める問題が出題された。2点を結ぶ最短距離ではなく、最短距離になるように線を引くもので戸惑った生徒も多かった可能性がある。昨年の体積から高さを求める問題と比べると易しく、面積から高さを出せば解けるものであったため、解答に至るまでの過程が減った。	体積や表面積など基礎を繰り返す。2点間の距離や最短距離など、相似と三平方の定理を使うものも訓練。
問7 平面図形・証明	円周角を利用した三角形の相似の証明で、傾向は変わりなし。相似条件も「2組の角」で、1組目の角は仮定から導ける。2組目の角は円周角を2組と三角形の外角を使うもので、やや難しめ。	円周角の定理の理解を深めるため、求角問題を繰り返す。簡単な証明で記述の書き方を身につける。

# 2017 国語-①

- ・全体として易化。マークシートが導入された結果、記述の比率が減り選択肢問題の配点が増えた。
- ・選択肢問題も、2択に絞るまでもなく正答できるものが多かった。全体的な文字数も減っている。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 語彙・文法	(ア)は漢字の書きがセンターと同様の形式の選択問題に。かなり易くなった。 (イ)は格助詞、接続助詞の「と」の識別。文法的知識がなくとも、意味をよく考えれば解ける。 (ウ)は俳句の鑑賞。選択肢の前半だけで正答を絞れる易しい問題だった。	漢字学習の際は、字面だけでなくそれぞれの熟語の意味までを把握できるようにしていこう。
問2 古文	古文。出典は近世後期の随筆から。 時代が近いだけあって読みやすく、内容としてもよくある動物報恩譚であり、内容は把握しやすかった。	「いと」や「あやし」といった基本的な古文特有語、古今異義語は覚えておく。 注釈・傍注をよく読み、文全体の流れを掴むことを意識しよう。
問3 物語文	小説。作品は明治後期～大正ごろの長屋を舞台とした一種の幻想小説だが、問題化された箇所は一般的な教養小説(成長物語)として読める。 ここ数年出題されていた記述問題が無くなり、配点が下がった。(ア)の空欄補充は数年ぶりの出題。その他は(ウ)、(エ)など、容易に正答を絞り込める設問がほとんど。 (イ)、(ウ)には傍線部以降の内容が含まれた選択肢があり、読み切ってから解こうとするとかえって混乱したかもしれない。 (オ)は今年の設定問の中ではやや難しかった。「浩三」としての成長のイメージ(余分なものが取り除かれ、核だけになっていくこと)が掴めている必要がある。 (カ)は2と4で考える問題。「視点」という用語の理解で正答できるかどうか分かれた。	日頃から意識的に本を読むようにし、文章から具体的な場面を立ち上げる力を付けることがまず大切。問題演習量も重要。選択肢を消去法で検討する技術を身に付けよう。

# 2017 国語-②

- ・全体として易化。マークシートが導入された結果、記述の比率が減り選択肢問題の配点が増えた。
- ・選択肢問題も、2択に絞るまでもなく正答できるものが多かった。全体的な文字数も減っている。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 論説文	<p>出典は内山節のエッセーから。空欄に接続語を入れる(ア)、書き抜きの問題が無くなり、傍線部の内容を問う選択肢が増えた。配点もそれに伴って上がっている。</p> <p>筆者は高校・大学入試の常連であり、問題集にも多く採られている。議論は抽象的だが、テーマは典型的な近代主義批判。問題演習を重ねている生徒にとってはむしろ読みやすかったのでは。</p> <p>近代的な経済＝社会的な意義や個々人の生と切り離された経済 ↓ 半市場経済＝経済活動に社会性を取り戻そうとする試み</p> <p>という図式を掴むことが大切。</p> <p>(オ)の記述は平年並みの難度。キーワードを見つけ出せれば比較的容易に書ける。</p>	<p>筆者の主張とその根拠、文中で何と何が対比されているのか等、論理的な文章の内容を把握する上での基本的な事項を押さえて読む訓練をしていく。出題されやすいテーマはある程度絞られるので、他県入試も含めた問題演習を通じてそれらを掴んでいくことも大切。</p>
問5 資料からの記述	<p>12点から10点に配点が下がった。</p> <p>(ア)の空欄補充の形式が変化し、2カ所の完答という形に。難易度自体には変化はない。</p> <p>(イ)の記述も平年並みかそれ以下の難度。文字数が減り、書き抜くポイントが固まっている。</p>	<p>問4、問5の記述はいずれも文章からの書き抜きで答えることができる。模試や入試過去問等、神奈川県入試に即した形式の問題で練習を重ねよう。</p>

# 2017 社会-①

- ・問われている知識は基本的なものであり、問題の難度自体は平年並みだが、例年出題されていた作図の問題がなくなる、記述問題に文字数指定がなくなる等、出題傾向に変化が見られ、対応しきれない生徒がいたことが予想される。
- ・地理では分野横断型の設問がなくなったが、その分歴史で地理分野と融合した問題が目立った。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 世界地理	<p>正距方位図とメルカトル図を並べる形式は昨年と同様だが、小問の構成には変化が見られた。</p> <p>(ア),(イ),(ウ)は地図の読み取りや時差の計算など非知識事項の問題。方位を知るためには正距方位図を使う、地球の裏側では経緯が正反対になるといった地図の読み方が問われた。(ウ)の時差の問題は今回も複雑で、飛行機の搭乗時間や待ち合わせ時間を考慮する必要があった。</p> <p>(エ)は雨温図と農作物を組み合わせた新傾向の問題。各地の主要な産物は押さえておく必要がある。</p>	<p>白地図に書き込みをしながら、早い段階から各地の重要ポイントを復習していくことが大切。地図の読み方、時差の問題については、問題演習をしっかりと行い、解法を身に付けていこう。</p>
問2 日本地理	<p>これまで出題が続いた分野横断型の問題がなくなり、作図問題もなくなる。問題数、配点ともに減少(8問から5問、20点から15点)。</p> <p>問題自体の難度は平年並み。各地域の特色は最低限把握している必要がある。地形図の略断面図を問う(ウ)の(ii)は新しい傾向。等高線などから必要な情報を読み取る必要があった。</p>	<p>世界地理同様、早い段階から重要ポイントを振り返っておくことが重要。地形図の問題は、少ない暗記事項で得点を稼げる。地図記号を覚え、問題演習を重ねよう。</p>



# 2017 社会-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問3 近世までの歴史	<p>歴史分野では、例年出題が続いた並び替えの問題がなくなった。 (ア),(イ),(ウ)までは地図と資料を使った分野横断型の問題。年表を暗記させるだけでなく、各時代の政治中枢の位置、主要な出来事がどこで起こったかなどを把握させる必要がある。 (ア)の(あ),(ウ),(エ)など、文化史からの出題も多かった。テーマ史のまとめにも目を通しておけるとよい。</p>	<p>まずは年表を使った暗記を進め、基本事項を整理し、出来事の流れを掴もう。重要な出来事がどこで起こったかなど、地理分野と絡めた学習も大切。</p>
問4 近代以降の歴史	<p>経済史という切り口からの出題。難度は全体として高くない。基本的な事項が押さえられていれば解ける問題だった。 (エ)の記述では文字数の指定がなくなった。まゆ(生糸)と米の価格の「下落」というキーワードは与えられた資料中にはなく、文脈や状況から推定する必要があった。苦戦した生徒も多かったのでは。</p>	<p>近代以降は情報量が増えるので、出来事間の因果関係もしっかりと押さえ、説明できるようにしていくことが大切。それが記述対策にも繋がる。文化史や生活史といったテーマ史にも目を通そう。</p>
問5 公民 憲法・人権・政治	<p>人権と憲法、政治。難度は平年並みかやや易しい。基本的な事項の把握ができていれば可。 (エ)はかなり易しい資料の読み取り問題。平年なら記述で出題されているような問題だった。</p>	<p>一問一答形式の問題等で、基本事項の暗記をするのが基本。比例代表並立制の意義など、理解が必要なポイントについては自分で説明できるように。</p>
問6 公民 経済・国際	<p>(ア)から(ウ)の難度は平年並みか易しい。 (エ)は文字数の指定のない長めの記述。難度自体は平年並みだが、文字数が定められていない分、要点を自力で的確に押さえて書くことが求められた。</p>	<p>基本はやはり暗記だが、とくに経済分野は記述問題が出題されやすい。資料から必要な情報を読み取りまとめることができるよう、問題練習をしていくことが大切。</p>

# 2017 理科-①

- ・記述問題が1問減ったが、問題数や配点、出題順序などに大きな変更はなし。過去3年分の中で出題されてこなかった音、酸化還元、月、微生物の実験などが出て、想定通りの出題単元となった。
- ・大幅な変更点は難易度設定であり、ここ数年のレベルと比べるとだいぶ易しくなった。大きさを比較する問題や浮力・水圧の問題など、これまで必ず出題されてきたパターンが消え、基本知識のみで解ける問題が増えた。実験結果や対照実験の考察もレベルが下がり、実験内容から導く記述問題も易しくなった。
- ・グラフを書く問題や、数学の図形的思考を必要とするものもなくなった。  
このように、全体的に思考力を問われるものが減り、オーソドックスな全国入試でよく見る基本問題が増えた入試となった。入試制度が変わる前の水準に戻った印象。

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問1 物理小問	クルックス管、力のはたらき、音の3問。基本的な問題。	
問2 化学小問	気体の性質、水の状態変化、電極を使った水酸化ナトリウム水溶液とリトマス紙の実験結果。実験器具の使い方は問われず。基本的な問題。	問1～問4は基本知識のみで解けるものが多い。 物理、化学、生物、地学の4単元それぞれで基本知識を身につけていく。暗記中心。
問3 生物小問	花のつくり、受精卵の染色体数、刺激と反応の経路。 花のつくりの問題では、ランの花の写真と各部位の説明文を読みながら、それぞれの名称を判断する問題。その説明文がアブラナの花との比較で記述されており、判断に迷う生徒もいたかもしれない。	

# 2017 理科-②

	出題傾向の変化/出題の特徴	学習のポイント
問4 地学小問	惑星の分類、月、雲のでき方の実験。 月の問題では知識のみでは対応できないものであったが、入試レベルの問題。 雲のでき方の実験では、実験から考察できることを選ばせる問題で、これも思考力が必要であった。	
問5 運動と記録テープの実験	斜面をのぼる運動についての問題。(ア)(イ)は基本。(ウ)と(エ)はやや難しい。(ウ)では、力のはたらきと運動のしくみを理解できている上に、記録テープの分析力が必要となる。仕事の原理からエネルギーの関係性を記述する問題が出題された。	
問6 酸化還元の実験	(ア)は基本。(イ)(ウ)はグラフからの質量計算の問題が出題され、差が出る問題となった。(エ)では化学反応式を分子の形で問われるよく出題されるパターンであった。	差が出るのは問5～問8の中でそれぞれ2問ずつくらい。基本は全て正解し、いかに応用問題を解けるようにしていくかが今後のポイントとなる。
問7 微生物の実験	神奈川県ではよく出題される、会話形式で実験を進めていく問題。どんなことが推測されるか、どんな対照実験をしなければいけないのか判断しなければならなかった。実験内容は教科書に出てくるレベルの基本であり、例年と比べるとレベルが下がった。	レベルの高すぎる問題は除き、全国入試で標準的な問題に多く触れ、ミスが減らす練習も必要になってくるであろう。 また、実験の考察は今後も出題される可能性が高いので、対策が必須。
問8 地震と柱状図	地震の計算が出題されたが、典型的な入試レベルとなった。	